

市長記者会見記録

日時：2026年1月5日（月）14時00分～14時41分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：令和8年の年頭にあたって、2026年がスタート！2026年ブランドメッセージポスター、シティプロモーションサイトを初公開

＜内容＞

《令和8年の年頭にあたって》

【司会】 ただいまから定例市長記者会見を始めます。

初めに、令和8年の年頭に当たりまして、福田市長から御挨拶させていただきます。
それでは、市長、よろしくお願ひします。

【市長】 改めまして、新年おめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

先ほど職員向けのお話をさせていただいたて、お越し頂いた記者の皆さんもたくさんいらっしゃると思いますが、今年正月は、天候もそうですが、非常に穏やかな正月を迎えて、全国的にも大きな災害もなくということでありましたので、今年1年、本当に平穡で災害のない、事故のない1年であることを心から願っております。

今年は、世界的にもスポーツが盛り上がるんじゃないかなと。冬季五輪もありますし、WBC、サッカーのワールドカップ、あるいはアジア競技大会もありますし、日本、世界がスポーツの爽やかさというか、頑張りというのが勇気を与える年なのではないかなと期待しておりますし、また、川崎のホームチームの皆さんにも頑張っていただいて、また市民に力を、勇気を与えていただきたいなと思っております。

市政課題は本当に多岐にわたっておりますが、今年は総合計画の4期計画の1年目になりますので、しっかりと取組を進めるとともに、この1年目が非常に大事だと思っておりまして、そして、先ほど職員向けにも話したんですが、つくった計画を、ただそのレールに乗っかっていくということではなくて、常にその立ち位置というのが正しいのかということを私自身もしっかりと市内を見聞きしながら、常にアジャストしていくという形で取組を進めていきたいと思っております。

私から冒頭の御挨拶は以上でございます。よろしくお願ひいたします。

【議題】

《2026年がスタート！2026年ブランドメッセージポスター、シティプロモーションサイトを初公開》

【司会】 続きまして、本日の議題に入らせていただきます。本日の議題は「2026年がスタート！2026年ブランドメッセージポスター、シティプロモーションサイト初公開」となっております。

初めに、今回のポスター及びシティプロモーションサイトの初公開について福田市長から御説明いたします。市長、よろしくお願ひします。

【市長】 それでは、まず、2026年川崎市ブランドメッセージポスターについて御説明をいたします。今年、2026年のポスターは「100+2歳のまち」でございます。川崎市は、多様性を可能性として成長してきたまちです。そして、2歳の子供は可能性と優しさの塊です。川崎を2歳の子供になぞらえ、「無限の可能性と、見返りを求めるギブ&ギブのやさしさ」をコンセプトといたしました。小さな優しさにより、違いは壁ではなく思いやりに変わり、その優しさが連鎖し、未来を明るく育っていく、そんな川崎らしい人の温かさ、多様性が育む明るい未来をメッセージとイラストで表現しております。

イラストでは、2歳の子供がぬいぐるみにお菓子を分けてあげる行為を、ギブ&ギブの世界の象徴として描いております。子供の姿に川崎のまちを重ね合わせ、これからもこのまちが明るくすくすくと育っていくというメッセージをコピーと一体的に伝えております。今後、多くの方に見ていただけるよう、本市関連施設のほか、市内の鉄道路線各駅での掲出や、民間企業・団体等への配布により周知をしてまいります。

続きまして、シティプロモーションサイトの完成について御説明をいたします。川崎市は、常に新たな挑戦を続けるまちでもあります。まちなかでは、あらゆる分野の人や企業、団体の皆さんつながり、新たな価値の創造に挑み続けています。その姿を、川崎市民の皆様をはじめ多くの方に知っていただくことを目的に、このたび、シティプロモーションサイトを開いたしました。こちらでございます。

サイトのタイトルは「Colors」です。「Colors」の最後にはカンマをつけておりまして、ブランドメッセージを想起させるとともに、この先もさらに続く川崎の挑戦する姿が、このサイトから見えてくることをイメージしております。コンテンツは、川崎の魅力を「産業・研究開発」や「文化芸術」など5つの分野で切り取り、それぞれの分野で挑戦する人々へのインタビュー記事や、魅力あふれる施設などのツアーフル記事、川崎の強みをインフォグラフィックスで分かりやすく解説する記事などで構成しております。どの記事も、新たな取材を基に書き起こしました読み応えのあるものとなっております。このサイトを、既に川崎市にお住まいの方だけでなく、これから川崎で新たな生活をする方々にも御覧いただき、川崎に住み、学び、働くことの魅力を

改めて感じていただければと思っています。シティプロモーションサイトは、ただいまから公開でございます。皆様もぜひ御覧いただきたいと思います。

私からの説明は以上です。

【司会】 それでは、質疑応答に入らせていただきます。なお、市政一般に関する質疑につきましては、議題についての質疑が終了後、改めてお受けいたします。

それでは、初めに幹事社様からよろしくお願ひします。

【読売（幹事社）】 読売新聞です。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

では早速、ブランドメッセージポスターについて何点か質問させていただきたいと思います。まず市長にお尋ねしたいのが、こちらのポスターの今の3ページ目にございます「多様性を可能性として成長してきたまち」というところなんすけれども、もう少し具体的に、川崎が多様性を可能性として成長してきたまちというこの言葉に込めた思いと、どういったところを多様性と捉えていらっしゃるか教えていただけますでしょうか。

【市長】 多様性の件について、多様性は可能性というのは、私たちのブランドメッセージそのものに書いてあるものでありますけれども、川崎市がもともと4万8,000人のまちから始まって、今、住まわれている方は、最近は川崎生まれという方が増えておりますけれども、多くの方が川崎市外、県外あるいは国外の皆さんが川崎に来て、住まいし、働きということで、いろんなところから集まってきて、そしてまちを成長してきたというそういう歴史というものを、これまでもこれからも大切にしていくということでありますし、多様な人たちが集まって重ね合わせてきたことによって可能性をつくり出してきたという歴史があります。その価値をこれからも100年を超えて大切にしていこうというメッセージが、ブランドメッセージでありますけれども、それを今回のポスターでも、102歳という形ですけれども、これからも大切にという思いをこの中に含ませていただいております。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。これはちょっと所管になるかもしれないんですけども、ポスター、大体何枚ぐらい掲出する予定かというのと事業費と、あとこのポスターに写っている、女の子なのか男の子なのか、わざとぼやかしているのか、教えていただければと思います。

【市長】 まず、B2サイズが2,500枚、それからB1サイズで70枚の2種類を作成させていただきましたということと、ポスター経費については、ポスター作成業務は約200万円でございます。これは、ポスターに係る企画、作画、デザイン及び印刷を含んだものとなります。

それから、男の子か女の子かで、ジェンダーレスで設定しております、イラストにしたのもその理由の一つなんですけれども、あの子とかということじゃなくて、誰にでもなり得るというような、そういうような、自分であるかもしれないし、の方かもしれないし、あの子かもしれないしという、そういった思いがあって、性別も見方によってはどっちでも見えるかなと思いますし、あなたであるかもしれないというような、そんな思いを込めております。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。確認で、ポスターはB2サイズが2,500枚、B1サイズが70枚とおっしゃっていましたか。

【市長】 はい。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。あと最後、1点だけすいません、このイラストを描かれた方が、例えば市内在住のイラストレーターですとか、もしそういうゆえんみたいなのがございましたら教えてください。

【市長】 川崎市在住のイラストレーターの方でございまして、SMILES FACTORYさんに描いていただきました。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

弊社からは以上です。

【NHK（幹事社）】 幹事社のNHKと申します。本年もよろしくお願ひいたします。シティプロモーションサイトについて伺いたいんですけども、御説明もあったんですが、もう少し具体的に、詳細にどういう方にどういうふうに見てほしいのかということを改めて伺います。

【市長】 まず、本市のシティプロモーションの特徴、他都市と圧倒的に違うのが、基本的にはシティプロモーションを、市外の方じゃなくて市内の皆さんに対するシティプロモーションであるということなので、メインは、市民の皆さんに川崎のまちのよき、すばらしさ、人々のよさを知っていただきたいということなんですけれども、先ほど説明でも申し上げたように、川崎ってこんなところなのかと市外の方にも見ていただきたいですし、新たに川崎に引っ越しがれてくる方たちにも、こんなまちが川崎、すてきだなと思っていただける、そんなサイトのつくりになってます。何となく川崎をもう既に、もう長く住んでいて知っているよという方でも必ず発見があるサイトだと思っていまして、これで終わりではなく、これからどんどん新しい記事が増えていきますので、そういった形の位置づけのサイトでございます。

【NHK（幹事社）】 ありがとうございます。

NHK、以上です。

【司会】 じゃ、幹事社様以外で御質問ありましたら。

神奈川新聞さん、お願いします。

【神奈川】 神奈川新聞ですけれども、こちらのサイトですけれども、最初の初期費用とか年間ランニングコストはどれくらい想定しているのか、また、何万人ぐらいPVとかをイメージしているのか、あれば教えてください。

【市長】 まず、制作費用につきましては、デザイン、システム構築、取材、撮影、記事制作などを含めて、令和7-6年度のシティプロモーション推進事業費の範囲内で対応しております。サイト構築、記事作成、サーバー管理を含めて1,500万円程度となっております。そのうちランニングコストとしては、年間約120万円というものです。

【神奈川】 PVとかは何か想定するはあるんでしょうか。

【司会】 所管のほうで。

【総務企画局】 シティプロモーション推進室と申します。御質問いただきましたPVの件でございますが、今回、この後、広告を打っていこうと考えているところでございまして、今年度中、広告を含めて10万ビューぐらい獲得したいと考えているところでございます。

【神奈川】 年度で。

【総務企画局】 年度で、はい。

以上でございます。

【神奈川】 市長は今日、冒頭で職員向けに話していたとおり、AIの活用がすごく進んでいて、世の中の人が「川崎市のよさは」とか聞いたら、だーっと出してくれるような時代において、あえてこういうサイトを市がつくろう、つくらなきゃいけないと思った理由などがありましたら教えていただけたら。

【市長】 先ほど申し上げたように、5つの分野に分かれて、かなり読み応えのある記事になっていまして、何となくさらっとということよりは、もう少し深く、人を通じてというか、見てもらって、読んでもらうことによって共感だとが生まれると思っていまして、そういうことを通じて、さらにシビックプライドというものを醸成していければいいなと思っていますので、何となく表面的というよりも、分野は広いんですけど、もう少し深くという形で見ていただける、そういうものになっているかなと思いますし、今後にも期待していただきたいと思います。

【神奈川】 例えばフェイクニュースとかが増えていく中で、市がやることに意義を見いだしたりもしているのかなと思ったんですけど、そういうことじゃなくて、あく

までも深掘り、深掘りの部分で読んでほしいというところでいいですかね。

【市長】 そうですね。やはり重層的なものがすごく大事だと思っていまして、川崎市のシティプロモーションがやっているXですとか、そういったものでもかなり細かくディイリーにというぐらい発信をしておりますけれども、こういう読み応えのあるものというので、幾つか重ね合わすことによって、深みだとか広がりが出てくるのかなと思っていますので、ある意味、シティプロモーションに特化したものというのが、ほかの都市でもやっておられるところはありますが、いいものになっているんじゃないかなと思っております。

【神奈川】 ありがとうございます。

【司会】 産経新聞さん、お願ひします。

【産経】 産経新聞です。よろしくお願ひします。プロモーションサイトなんですが、記事制作も含めて1,500万円程度という話だったんですけれども、これ、記事は誰が書いているんですかね。

【市長】 いいですか。

【司会】 所管のほうで。

【総務企画局】 シティプロモーション推進室です。記事については全てインタビュー等を行っておりますので、そういった先方の出演者の方の声ですとか、あとそういったものをこちらのほうで書き起こしをしたものを掲載しておりますので、事実については全て出演者の方の声になります。

以上でございます。

【産経】 要は、外注はしなくて市で全部やっているということですか。

【総務企画局】 記事については一部委託をしておりますので、そういったところで書いていただいている部分もございますし、市のほうで記載している部分もございます。

以上でございます。

【産経】 どういう人を選んでとか、どういう内容を聞くとかというのを、どこまで市の職員が自分たちでやって、どこを外注でやっているかを教えてほしいんですけども。

【総務企画局】 委託している業者とも調整をしているんですけども、あくまで市として、挑戦する姿、挑戦し続ける姿を打ち出したいというところをコンセプトに、事前の調査を市のほうでいたしまして、それと委託業者のほうで情報を掛け合わせて制作をしているところでございます。

【産経】 すいません、よく分からなかつたんですけれども、誰をインタビューするかというのはどうやって決めたんですか。

【総務企画局】 市のほうで決めております。

【産経】 今回、5人の方ですね。5人のうち何人を市でやつたのか、何を委託したとかというのはあるんですか。

【総務企画局】 一部聞き取れなくて、ごめんなさい。

【産経】 滑舌が悪くてすいません。5人のうち何人をどこまで市が自分たちで自前でやって、どういう部分を委託したとかというのを分かりやすく説明していただけますか。

【総務企画局】 人材の選択につきましては、まず、市のほうで所管局と調整をさせていただきながら、こういった人いないでしょうかというところでチョイスをさせていただきました。具体的な質問内容等については、たたき台のようなものを委託業者のほうでもつくっておりまして、そこと市のほうで、実際これでいいだろかというところを調整して進めまして、インタビューを行つて、それを一部業者の方で書き起こしたものを見せて、改めて先方であつたり所管のほうで校正をして、掲載につなげたという形になります。

以上でございます。

【産経】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 東京新聞さん、お願ひします。

【東京】 東京新聞です。今年もよろしくお願ひいたします。まず、サイトのほうについて伺いたいんですけど、先ほど、令和6年度の予算からとおっしゃったんですが、7年度ではなく6年度の……。

【総務企画局】 7年度でございます。記載ミスです。

【市長】 失礼しました。

【東京】 「シティプロモーション」という言葉が、読者の耳にはあんまり慣れない言葉かなという気がするんですけど、例えば「川崎市のPRサイト」みたいな言い方でもよいのかを確認させていただいていいですか。

【総務企画局】 一応タイトルとしては、「シティプロモーションサイト Colors,」ということを正式名称にはしておりますが、記事等で御紹介いただくときには、「川崎市をPRするサイト」という形で掲載していただいても結構でございます。よろしくお願ひいたします。

【東京】 ありがとうございます。先ほど市のウェブサイトを確認して、市のウェブ

サイトのトップページからたどっていけそうだなというのを確認したんですけど、これは当分、市のサイト上からちゃんとつながっていけるのか、それとも、しばらくしたら「川崎市シティプロモーション」とかで検索したときに一番にこのページが出てくるようになるのか、どういう形で市民の方に御案内したらいいんでしょうか。

【総務企画局】 当面は、市の公式サイトから飛んでいただくような形になりますが、今後、広告を打ったりですとか、いろいろな方の目にしていただくことで、検索をしていただくとシティプロモーションサイトへ飛んでいけるような形になるかと思います。

【東京】 ありがとうございます。ポスターのほうなんんですけど、画像で見るとクリーム地っぽく見えるんですけど、あちらの立てられているほうだと白っぽく見えるのですが、地の色は何色なんでしょうか。

【市長】 若干クリーム地ですよね。

【東京】 ありがとうございます。すごく変なことを聞くんですけど、いつまでこの100プラスにこだわるんですか。

【市長】 いや、あんまりそこにはないんですけど、102にこだわったわけではないんですけど、議論している中でここに落ち着いたので、来年はどうするかなんていうのは全く考えておりません。

【東京】 2歳というと、やっぱりイヤイヤ期とか魔の2歳児というのであんまりいいイメージがないんですけど、今年の7月に102周年を迎えることに合わせて2026年のポスターはこれでいくということで、年度じゃなくて年のポスターということでおいいんですよね。

【市長】 そうですね。

【東京】 ありがとうございました。

【司会】 ほかに御質問のほう、よろしいでしょうか。

読売新聞さん、お願いします。

【読売(幹事社)】 ごめんなさい、追加で1点だけお願ひいたします。市長から見て、このポスターの出来栄えがどうだかというのを一言いただけますか。

【市長】 実は、今までのポスターの中で最高の出来だと思っていました、イヤイヤ期、なるほど、そういう見方もあるかと思ったんですけど、本当にギブ&ギブって先ほど申し上げましたけれども、優しさの塊、利他の精神のまさに象徴なんじゃないかと思っていました、こういった優しさの連鎖ということに、これまでパラムーブメントでもやってきましたが、こういう気持ちが広がっていけばいいなという思いが非

常に分かりやすく伝わる、今までポスター史上最高ではないかと思っております。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

【司会】 東京新聞さん、お願ひします。

【東京】 今、利他の気持ちが広がっていけばというお話もあって、実際このポスターの中でも、「ちがい」は壁ではなく、思いやりへと変わっていく」という表現がありますけれども、やはり今、ネット上なんかで広がっているヘイトについても若干念頭に置いたものではあるんでしょうか。

【市長】 そこを念頭に置いているわけではないです。何か特定なものということではなくて、道徳的な話ではないんです。こういうことではなくて、私たちのブランドメッセージと一緒にのように、こういう価値で私たち来たよね、こういうふうにやりたいよねというものをステートメントとして示しているので、行政がつくるもので、ここは非常に私たちも気をつけたところで、何かの価値を押しつけるような形にはしないでいきたいよねと。ただ、ブランドメッセージと同じような価値観の中で表現できればなと思っていて、そういう意味では、多様性ということを優しく言っていると思います。

【東京】 先ほど、2,570枚という形で教えていただいたと思うんですけど、去年の記事を見ると約2,000枚という書き方をしていて、今年増やされたのか、増やしたのであればどういうところへの掲出を増やしていくイメージなのか教えていただけますか。

【司会】 所管でよろしいですか。

【総務企画局】 シティプロモーション推進室でございます。御質問の内容ですけれども、B2サイズ2,000枚、B1サイズ、そこに飾ってある大きなもの、そちらが70枚ということで、昨年度が2,000枚、今年度がB2サイズが2,500枚ということで500枚増やしているんですけども、増えた主な送付先というか、掲出先はこども文化センターといこいの家、警察署、その辺り保育園が大きくなっています。

以上でございます。

【東京】 今まで保育園には出してなかったということでよろしいんでしょうか。

【総務企画局】 はい、そうでございます。

【東京】 保育園は、数から分かるんですけど、公立園だけじゃなくて民間のところにも出していくようなイメージでよいでしょうか。

【総務企画局】 すいません、確認が必要になるんですが、主に公立の保育園になり

ます。(斜め文字の箇所は訂正により削除)

【東京】 ありがとうございました。

【司会】 ほかに御質問のほう、よろしいでしょうか。

では、議題については以上とさせていただきます。

【市政一般】

《物価高騰対策について》

引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けいたします。よろしければ幹事社様からよろしくお願ひいたします。

【NHK（幹事社）】 幹事社のNHKと申します。これまで伺ってきていると思うんですが、物価高に伴うお米券、国から交付金が出て、川崎市としての検討状況を改めて伺えますでしょうか。

【市長】 まさに今検討中でございまして、いろんな詰めの議論をしているところでございます。

【NHK（幹事社）】 いつ頃までに方針を決めたいなとか、そういったものはいかがでしょうか。

【市長】 なるべく早く決めて、準備にかかっていかないといけないと思っていまして、なるべく速やかにというぐらいです。

【NHK（幹事社）】 以上です。ありがとうございます。

《特別市について》

【読売（幹事社）】 読売新聞です。今年は特別市制度の地方制度調査会の審議への期待が高まっていると思うんですけども、昨年進められていた、高市総理を含め国会議員への審査を要請するようなアプローチですとかアポ取り含めて、どういう進捗があったのか、もしあ会いできた方がいらっしゃれば、どういった会談内容があったのか教えていただければと思います。

【市長】 年末、昨年12月に、主要政党の政策担当者の方にお会いする機会というのでアポ取りをして行つきました。時系列的に申し上げますと、12月11日に国民民主党の玉木代表をはじめ政調会長、それから国民民主党は地方制度調査会というのが設置されておりますので、地方制度調査会長と事務局長4人でお会いしました。

同じ日、立憲民主党の政調会長、政調会長補佐2名、それからネクスト総務大臣の方にも、4名の方にお会いさせていただきました。それから、翌12月12日に自民党的小林政調会長にお会いさせていただきまして、続いて12月24日に公明党の西田幹事長、岡本政調会長、庄子総務部会長をはじめ総務部会長代理、副部会長の皆さん、

計6名でお会いさせていただいております。それから、翌12月25日には日本維新の会の斎藤政調会長にお会いさせていただいております。

という形で、主要政党のところの主に政策担当者の皆さん、政調会長にお話をさせていただいて御理解を深めていただいたところでございます。ぜひ引き続き各政党、個別の国会議員の皆さんにもしっかりと働きかけていくと同時に、政令市を応援する国会議員の皆さんともいろいろやり取りをさせていただいておりますので、引き続き取組を進めたいと思っています。高市総理へのアポにはまだ至っていないということですございます。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。確認なんですけれども、お会いしたときにお話しされたこととしては、年末の最終報告書についての改めての説明ですか、それを踏まえて、地方制度調査会で審議をしてほしいというお話をされたんでしょうか。

【市長】 そのとおりです。11月に行われた指定都市市長会でのまとめ、最終報告書を御報告して、どんな取組をしてきたのかということについて、それぞれに御説明させていただきました。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。特に国民民主なんかは前向きなのかなと私も報道ベースで理解しているんですけども、各党からの反応というところで手応えというのはありましたでしょうか。

【市長】 やはり総じて、こういったことは重要だというのは、今年の通常国会でもいろいろ統治機構改革の話は進むという認識が皆さんおありますので、そういった意味では一連の話の一つだなという認識で聞いていただいているのではないかと思っています。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

【司会】 では、幹事社様以外で御質問。

朝日新聞さん、お願いします。

【朝日】 朝日新聞でございます。国民民主党が12月の上旬に法案骨子を示して、その中に人口の規模の基準を盛り込んでいるんですけども、政令指定市で150万人、その周辺の市町村を巻き込んで人口150万人と。川崎市はその基準をクリアしているんですけども、人口基準を盛り込んだことについて、市長、何かありますでしょうか。

【市長】 私どもからは、人口要件というよりも、政令指定都市であることが大事だということが私たちの指定都市の立場ですという形では、国民民主党さんにもお伝え

させていただいておりますので、150万人要件と言われると、私どもの考え方とは少しそこは異なっているとは認識しています。

【朝日】 その辺りは、12月12日にお会いしたときには話題に……。

【市長】 人口要件の話にはなりませんでした。

【朝日】 国民民主党さんの法案骨子については、どんな話題があつたんでしょうか。

【市長】 法案骨子のことについては、特に意見交換はなかつたです。私たちのことについての説明と、今の情勢についての意見交換というのはございましたけれども、特に国民党案についてどうかという問い合わせもございませんでしたし、私から問うたこともございませんので、そんな話題にはなりませんでした。

【朝日】 一方で、日本維新の会、副首都構想ということなんですかけれども、一方で特別市についても反対はしない立場なのかなと私は見ているんですけども、実際お会いしてみて、その辺りはどういった感触を取られましたでしょうか。

【市長】 私も説明させていただいて、否定的なことはなかつたですし、要はすごくニュートラルな形で話を聞いていただいたという感覚を私は持っています。指定都市の中にも、例えば大阪市、堺市も含まれておりますので、そういう意味では、多様な大都市制度の一つというところで、ここは指定都市市長会として合致している部分でありますので、そういう意味では非常にニュートラルな感じではないかと私は受け止めております。

【朝日】 ありがとうございました。

【司会】 ほかに御質問。

東京新聞さん、お願いします。

《職員採用における国籍条項について》

【東京】 三重県のほうが職員採用の国籍条項を復活させることも検討するということを打ち出しましたけれども、三重県が考えているような情報セキュリティー上の懸念というのはほかの自治体でも共通なのかなと思うんですけども、川崎市で国籍条項を復活させる可能性は現時点であるのかないのかということと、今回の三重県の動きについての御見解を伺えますでしょうか。

【市長】 現在、変更する考えはございません。他の政令市と同様、やはり国の見解法律に基づいて、外国籍の方が就けない職種がございますので、そこはしっかりとしながら、現時点でこれまでどおりの運用をしていくということになると思います。三重県の話というのは、私、報道ベースでしか存じ上げないので、どういうお考えから来ているものなのかというのは推測の域になってしまいますが、ここはコメントは

控えたいと思います。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問ございますでしょうか。

じゃ、時事通信さん、お願ひします。

《特別市について》

【時事】 時事通信です。質問は事務的になります。12月に主要政党に特別市の関係で要請活動に行かれた、これ、指定都市市長会のプロジェクトリーダーとしての名前で行かれたということですかね。

【市長】 はい、そのとおりです。

【時事】 そのリーダーというのはいつまでというのか……。

【市長】 これはいつまでなんでしょうね。事務方からでよろしいでしょうか。

【総務企画局】 特別市担当です。市長のプロジェクトリーダーとしての任期は今年の3月末までとなっております。

以上です。

【時事】 分かりました。そのときにまた聞きます。すいません。ありがとうございます。

【司会】 じゃ、共同通信さん、お願ひします。

【共同】 共同通信です。先ほど特別市の関係で、国民民主の骨子案の人口基準150万人が要件だという話で、そう言われるとちょっと異なってくるんじゃないかなという見解を市長はお示しになったと思うんですけども、これは国民民主側にお伝えしたというわけじゃなくて、そう市長自身が今思っていらっしゃるという、そういうことで合っていましたか。

【市長】 実際は事務レベルで、そのようなお話をお伝えさせていただきました。指定都市市長会としては、150万という話ではなく、すごく非公式な形ではありますけれども、あくまでも指定都市市長会というよりも、プロジェクトリーダーとしての考え方を事務レベルから伝えてもらったという形でありますけれども、150万という人口要件で切るのではなくて、あくまでも指定都市市長会としては、政令市が要件になっていますということなので、今御質問いただいたように、この法案とは異なるという、そういう言い方ではなくて、私どもはこういうふうに考えておりますという、そういう言い方をさせていただいております。

【共同】 ありがとうございます。あと、各党の幹部との意見交換の中で、何か指定都市市長会として取りまとめた報告書を踏まえて、示された課題等があれば教えてい

ただきたいんですが、何かございますでしょうか。

【市長】 示された課題というのは特に、総じてそれほど拒否感的なものはなかったとは思っていますし、例えばどこの政党だったか、警察のことはどうなんでしょうかみたいな話が出たときにも、警察庁も一応それは可能だと言っていますという話を御説明したところ、ああ、そうなんですねというような、やや驚きを持って受け止められていたというのはございますが、私の感覚から言って、特に否定的なお話は各政党からもなかったと思っています。

【司会】 ほかに御質問ございますか。

朝日新聞さん、お願ひします。

【朝日】 朝日新聞でございます。再び特別市なんですけれども、地方制度調査会に向けて、全国知事会との意見交換の場を持つお考えはございますでしょうか。知事会はたしか、まだ知事会としての正式な意見表明はしてなかったと思いますので。

【市長】 昨年12月だったですかね、先月だったと思いますが、全国知事会の事務総長のほうに私から久元会長と私で御挨拶と御説明に上がって、それから阿部会長への説明もさせていただきたいということと意見交換させていただきたいということについてもお願ひをしてまいりました。ぜひ知事会の皆さんとも前向きな議論をさせていただきたいなと願っております。

【朝日】 要望ですけれども、もし決まりましたら頭撮りをさせていただけるとうれしいなとは思います。

《2026年がスタート！2026年ブランドメッセージポスター、シティプロモーションサイトを初公開》

【司会】 ほかに御質問ございますでしょうか。

1点だけ、先ほどのポスターの件で事務方から補足の説明をさせていただきたいと思います。

【総務企画局】 申し訳ございません。先ほど、東京新聞様から御質問いただきました、ポスターが増えた理由の部分で訂正をさせてください。保育園につきましては、公立、あと認可保育所等含め、昨年分も配布をしてございました。今年、新規で増やさせていただいた主な掲出先につきましては、こども文化センターといこいの家、警察署、その辺りが新規で追加させていただいたところになりますので、訂正をお願いいたします。ありがとうございます。

《職員採用における国籍条項について》

【司会】 ほかに御質問ございますでしょうか。

すいません、もう1点事務方から補足説明を。人事課のほうでお願いします。

【総務企画局】 人事課です。先ほど三重県の国籍条項のお話がありましたけれども、市長のほうから、法律に基づいてとあったんですけれども、厳密に言うと、法律というよりは、国の見解に基づいてということで運用しておりますので、そこだけ訂正させていただきます。

以上でございます。

【司会】 ほかに御質問よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして定例市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当